

トーヨーカネツ株式会社
2025年3月期中間決算説明会（2024年11月28日開催）
質疑応答要旨

Q1. 今後のM&Aの戦略について。特に注力する分野などはあるか。

A1. 現在、みらい創生事業で積極的にM&Aを進展させています。特に、今後も環境・防災に関連するM&Aを推進してシナジー効果を出していきたいと考えています。また、主力事業に成長した物流ソリューション事業においては、自助努力で成長していける部分はしっかり取り組んでいかなければならないですが、それ以上の部分は仲間が必要であると感じています。したがって、今後のM&Aとしては、環境・防災事業、物流事業をメインに進めていこうと考えています。

Q2. AMR技術を活用した物流センターの導入割合について。また、導入効果はどのようなものか。

A2. 物流センター全体でいえばAMRは相当数導入されていると思われませんが、当社におけるAMRの活用方法としては、これまで搬送コンベアという固定設備でモノを流していた部分や、モノを方面別に仕分けするソータの部分AMRに代替するというものです。AMRを導入するメリットとしては、固定設備であれば一度設置してしまうと環境変化に対応したレイアウト変更がなかなか出来なかったことが、AMRでは走行する場所を変えることで容易にレイアウト変更が可能となることにあります。今後の物流センターを取り巻く環境変化は非常に早いと捉えており、それに合ったシステムの提案に関してAMRに期待しています。

Q3. 機関投資家との対話量が増えた要因について。

A3. 昨年度は、一昨年度と比較して、機関投資家との対話時間及び接点を増やし、また質問も多くなっています。昨年11月に、資本コストや株価を意識した経営の実現についてリリース文を公表していますが、この中でIR活動を積極的に実施していくと開示しています。なお、機関投資家との対話量は1.7倍となりましたが、その他、個人投資家向けにも多くの会合等に参加して当社についての発信をしています。現状、PBR1倍に届いていないもどかしい状況ではありますが、IR活動を地道に続けていくことで認知度を高め、魅力ある銘柄にしていきたいと考えております。

以上